

講 義 等 の 内 容 (博 士 後 期 課 程)

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
経営学特別研究 (丑山優)	現代経営学における主要な概念についてのコンセプトと問題点を解明する。
日本経営史特別研究 (加来祥男)	第2次世界大戦後の日本企業の発展とその仕組みにみられる特徴を、生産システム、雇用システム、株式会社制度を中心に、国際比較を念頭におきながら考察する。
企業経済分析特別研究 (丑山優)	企業経営・企業経済分析・経営財務分野における、新たな展開について、その制度的および法的変遷・理論的分析を綿密に整理しながら、各自の研究課題を見いだすべく指導を行う。その際常に現実の企業経営が、どのように社会変化と関わり合いながら、どのような方向性を辿りつつあるかを見つけ出す訓練を行う。
ベンチャー戦略特別研究 (未定)	未定
マーケティング特別研究 (阿部真也)	マーケティングとは、市場調査から始まり、新製品開発や価格決定、広告やPRなどの情報提供、販売ルートの開拓などの一連の企業活動の総体であるが、その諸活動の消費生活におよぼす影響は大きい。特別研究では、このマーケティング活動を、とりわけ最近注目されているインターネットを使った情報収集や電子商取引、さらにはこの電子商取引のグローバルな展開としてのS.C.M(サプライチェーン・マネジメント)などの新しい動きにも注目して、研究を深めたい。
国際金融特別研究 (甘長青)	国際金融システムについて、様々な角度からその現状と課題を複眼的に考察する。
会計情報学特別研究 (木下勝一)	この研究では、市場における情報の非対称性を前提とした会計情報の新しい規制の在り方を正確に理解したうえで、企業の会計政策と国際的な会計基準設定の関係を解析する能力を養うのに役立つ専門知識を身につけることを目的として、現代の論点について体系的に検討する。
会計監査論特別研究 (木下勝一)	この研究では、財務諸表監査としての会計監査の必要性とその機能について理論的に分析するとともに会計監査の歴史的変遷やその制度について考察する。また、会計監査をめぐる国内外の最新の動きを追い、その意味について検討を行っていく。
情報科学特別研究 (車炳玓)	大量の情報がネットワーク上に存在し、今後も爆発的に増大する。広大な情報の海から、求める情報を捜し出すために、膨大な情報を収集・分析し、再構築する必要がある。ネットワークの広域性、データの多様性・分散性・不均一性を考慮した広域情報検索システムについて研究する。また、ネットワーク接続された計算資源を用いて大規模分散計算を行う Grid コンピューティングの研究も行う。国内外の研究組織とも協力しつつ、計算問題分割、計算資源の分散管理、自動スケジューリング等を研究する。

授業科目名	講義等の内容
視覚情報構成特別研究 (未定)	<p>人間は長い歴史の中で五感を用いてさまざまな記号を使いながらコミュニケーションを行ってきた。その中で80%もしくはそれ以上のコミュニケーションが視覚を通して行われると言われている。視覚的記号によるコミュニケーションの歴史はメディア発達の歴史でもある。</p> <p>本研究はメディアの発達や特性について概説しながら、紙媒体を中心とした視覚情報伝達の歴史を探り、画像構成との関係について考究する。また、電子媒体におけるコミュニケーションデザインの構成方法や可能性についても追究する。</p>
情報・信号処理 特別研究 (未定)	未定
数値解析特別研究 (大浦洋子)	<p>自然科学系では偏微分方程式等で記述された数理モデルが多く存在し、その数値解析手法もかなり確立されている。近年では、社会科学系についても同様なモデル化が盛んに行われている。数値解析特別研究では、このような数理モデルについて色々な基準による分類を試み、それらの特徴や一般的な解法、解析条件などについて調査研究する。また、楕円型 Laplace 方程式について、数値解析手法の1つである有限要素法の代表的な離散化手法を修得し、具体的な境界値問題について解析システムを利用したシミュレーションを試みる。</p>
応用数値解析特別研究 (大浦洋子)	<p>数値解析特別研究を踏まえて、偏微分方程式等の代表的な解析手法である差分法、有限要素法、境界要素法の考え方、特徴、先行事例などについて調査研究する。また、数理モデル（連続で滑らかな偏微分方程式）とシミュレーションモデル（離散化された方程式）について、厳密解と近似解の比較、離散化することによる数理モデルの性質の変化、シミュレーションモデル特有の性質などについて考慮すると共に、適合性、収束性、安定性などを検討しながら最善のシミュレーションについても深く考察する。</p>
人工知能特別研究 (岸川洋)	<p>現在は、インターネットが生活の一部となり、又、身の回りのあらゆるものにコンピュータ機能が組み込まれ、それらがネットワークで連携する時代となっている。1950年代頃から本格的に発展してきた人工機能技術は、これらの中に融合し、インテリジェンス機器として我々の生活を豊かにしている。本研究は、このようなインテリジェンス機器を実現するためにどのような人工知能技術が必要であるかという観点から議論し、考察をすすめる。</p>
画像処理特別研究 (麻生隆史)	<p>画像処理に関する様々な研究をまとめ、演習・シミュレーションで得られた成果を基に、博士論文作成のための研究のまとめ方、研究の細部に関する検証、情報科学の分野での直近の研究成果の調査をする。さらに論文作成に必要な高度なアイデアを再検討し、研究の進め方・まとめ方を指導する。具体的には、研究の新規性・学術的なレベル・社会への貢献等を考察する。</p>

授業科目名	講義等の内容
演習Ⅰ (麻生隆史)	情報科学の分野でも近年特に注目を浴びている、デジタル画像処理技術を詳細に解説する。特にフィルタリング処理や領域分割等を学び、それをデジタル画像処理へ応用しシミュレーションする。その際必要である様々なプログラミング技術 (MATLAB 等を含む) もあわせて学ぶ。さらに論文作成に必要な様々なアイデアを討論し、研究の進め方を指導する。
演習Ⅰ (丑山優)	特別研究において指導した内容から、各自のテーマを具体的に設定し、そのための文献指導、文献整理、資料分析方法の訓練を行う。
演習Ⅰ (大浦洋子)	社会・自然現象に関する理論的なモデル化、解析、予測、制御、可視化などの理論および具体的な問題解決の手法を研究することを目的とする。まず、自然科学分野で確立されている偏微分方程式をはじめとする数理モデルの把握と様々なアプローチを踏まえた有限要素法や境界要素法などに代表される解析手法を学ぶと共に、解析手法の安定性や解の精度についても学ぶ。さらに、経営情報学分野におけるシミュレーション手法援用の可能性について検討を行う。
演習Ⅰ (甘長青)	<p>共産党一党支配の中国では、政治や経済、社会などの面において、さまざまな歪みを内包しながら、30年以上も高い経済成長率を維持してきている。他方、日本は、世界最高水準の技術を持ちながらも、超高齢化や超財政難など「超」が付く数多くの難題に苦しんでいる。日本にとって、「失われた30年」を避けられるかどうかは新興諸国、とりわけ最大の貿易相手・中国の成長力を上手く取り込めるかどうかにかかっているとよい。</p> <p>この演習では、日中両国の経済問題を中心に、中国の行方と日本の将来を探りたい。</p>
演習Ⅰ (木下勝一)	演習Ⅰでは、博士論文作成のために、会計監査の理論面についての理解を確かなものとするを旨とする。このために、会計監査の必要性、機能、限界に関する理論的検討を行う。演習は、これらの論点を扱った文献を解説し、議論を行うことにより進める。
演習Ⅰ (車炳玟)	インターネット技術や計算能力の進化に伴い、高機能、高性能の知的情報処理に関する研究にますます関心が高まっている。演習Ⅰでは、人間の視聴覚情報処理に関する最新の研究動向について視野を広げるために、画像、映像、音声などを中心とするメディア情報の知的処理に関する基礎理論や先端技術等について知識を広め、研究に必要な基礎知識を習得する。
演習Ⅰ (津守常弘)	演習Ⅰは、博士論文作成に必要な会計理論に関する体系的知見の整理と深化を目的とする。そのため、「古典的アプローチ」と対比しながら、「意思決定・有用性アプローチ」の特徴を整理し、「財務会計概念フレームワーク」の主要な論点、とりわけ「時価会計情報」に関する理論的研究を深める。演習は、予め指定した英文テキスト・その都度配布する英文テキストの購読および問題点についてのディスカッションを中心に系統的に進める。

授業科目名	講義等の内容
演習Ⅱ (麻生隆史)	高度なデジタル画像処理技術を詳細に解説する。特にニューラルネットワーク、ファジィ理論、カオス理論等のソフトコンピューティング技術を学び、それをデジタル画像処理へ応用しシミュレーションする。FPGA等を用いたハードウェア技術もあわせて学ぶ。さらに論文作成に必要な様々なアイデアをさらに討論し、高度な研究の進め方を指導する。
演習Ⅱ (丑山優)	前半を、演習Ⅰで行ったことを引き続き行いながら、後半では各自の研究テーマに沿った構成を暫定的に確定することと、各構成要素にしたがって論理化するための要旨の作成の指導・訓練を行う。
演習Ⅱ (大浦洋子)	演習Ⅰを受けて、研究分野に関連した学術論文等のサーベイによって未解決問題を把握し、これまでの自己の研究内容と比較検討することで研究テーマの絞り込みを行う。その後、研究テーマの解決へ向けての理論的なモデル化、解析手法の選択、予測や制御に関する方針、数値解の可視化などに関する理論および数値解析コードの作成を踏まえた研究を行う。研究成果については、相応の学会等での発表を行う。
演習Ⅱ (甘長青)	演習Ⅱは演習Ⅰの研究課題を継続する。
演習Ⅱ (木下勝一)	演習Ⅱでは、博士論文作成のために、会計監査の制度面・実施面についての理解を確かなものとするを目指す。このために、会計監査の法的制度、監査規範（監査基準）、実施上の戦略や技術に関する検討を行う。演習は、これらの論点を扱った文献を解説し、議論を行うことにより進める。
演習Ⅱ (車炳圀)	演習Ⅰで習得した知識をベースに博士後期課程で行う研究のテーマを決め、その関連資料の収集及び輪読、追実験などを中心に研究を進めるとともにその研究成果を随時論文にまとめ、発表する。また、研究課程で出てきた諸問題点の検討および改良を行う。
演習Ⅱ (津守常弘)	演習Ⅱは、博士論文作成に必要な会計制度に関する体系的知見の整理と深化を目的とする。そのため、日、米、英、独など主要諸国における会計規制方式、コーポレート・ガバナンスの在り方の相違と国際的な趨勢について整理し、主に「マクロ会計政策」に関する理論的研究を深める。演習Ⅱは、演習Ⅰの場合と同様に、予め指定した英文テキスト・その都度配布する英文テキストの講読および問題点についてのディスカッションを中心に系統的に進める。

授業科目名	講義等の内容
演習Ⅲ (麻生隆史)	デジタル画像処理に関する様々な研究をまとめ、演習・シミュレーションで得られた成果を基に、論文作成のための研究のまとめ方、研究の細部に関する検証、情報科学の分野での直近の研究成果の調査をする。さらに論文作成に必要な様々なアイデアを再検討し、より高度な研究の進め方・まとめ方を指導する。具体的には、研究の新規性・学術的なレベル・社会への貢献等を検証する。
演習Ⅲ (丑山優)	各自の研究テーマに沿って、学位論文のための文章化を進めるが、各構成要素ごとに報告を演習内で行い、かつ外部での報告も試みる。なお学位論文として完成することが、それぞれの研究分野においてオリジナリティーをもって貢献することを期待する。
演習Ⅲ (大浦洋子)	演習Ⅰ・Ⅱを受けて、数値解析コードをさらに発展させるべく、研究内容のより詳細な分析や理論的骨組みの確立を踏まえた上でコードの改良やシステム化を施し、解析システムとしての信頼性の向上に努める。研究成果については、相応のジャーナル等への投稿を行うと共に、博士論文としてこれまでの研究成果をまとめる。
演習Ⅲ (木下勝一)	演習Ⅰおよび演習Ⅱにおいて、会計監査の理論面・制度面・実践面について体系的に理解したことをもとに、各受講者が個別のテーマを選び、先行研究を整理したうえで、独自の視点を明らかにしながら、具体的な研究を行っていく。演習は、各受講者の研究報告、および、それについて議論を行うことにより進める。
演習Ⅲ (甘長青)	演習Ⅲは演習Ⅱの研究課題を継続する。
演習Ⅲ (車炳玓)	演習Ⅱで進めてきた研究をまとめ、研究成果を学会発表及びジャーナル論文として投稿する。また、研究課程で出てきた諸問題の改良を進めるとともに知的メディア情報処理に関する知見をまとめ、より高度な知的処理手法の開発を目指す。
演習Ⅲ (津守常弘)	演習Ⅲは、受講者が選択する会計情報関連の特定テーマに関する博士論文の作成を具体的に指導することを目的とする。すなわち、この演習では、演習Ⅰにおける会計理論研究、演習Ⅱにおける会計制度・「マクロ会計政策」の研究を土台に据えながら、特定テーマに関する具体的な研究を行う。その場合、とくに会計実務の実態の把握、「マクロ会計政策」と「ミクロ会計政策」との関係を重要な研究課題として課し、また、実証研究的な手法を重視する。演習は、各受講者が選択した特定の研究テーマに関する研究報告とそれをめぐるディスカッションを中心にして進める。